

1市の概要（H30年度）

人口 186,526人
保護率 0.7%

2支援状況調査（H30年度）

新規相談受付件数人口10万人当たり
(件) 一月当たり 14.7
プラン作成件数人口10万人当たり
(件) 一月当たり 4.2
就労支援対象者数人口10万人当たり
(件) 一月当たり 0.8
就労・増収率(%) 78.9

3実施方法について

実施方法	委託（被保護とも一体的実施） ※単年度契約（プロポーザル無しの随意契約）
事業費	6,000千円
理由 (委託)	○障害者就労支援事業所としての実績があり、障害者就労支援のノウハウやネットワークが当事業における相談援助や福祉サービスと連携した就労体験等に活用できると考えたため。
事業概要	○就労準備支援員1.5人（1名は専属、1名は他業務と兼務）を配置。支援の大半は、個別ケース対応であり、病状確認や手帳取得検討のための病院受診同行、家庭訪問、買い物支援同行、就労見学・体験同行など、随時必要に応じた同行支援を柔軟に実施。 ○支援開始時は支援計画を立て、支援継続中は随時振り返りを行う中で、変化したところの確認や今後の方向性などについて評価を実施。 ○就労見学・体験先は、従来からの障害分野のネットワークを活かした就労継続A型・B型事業所との連携のほか、新たな協力事業所の開拓を推進。損害保険は受託業者で加入。
その他 特記事項	○受託業者施設内にて、軽作業体験や心理カウンセラー面談などを実施。

4事業実績（H30年度）

利用者	就職者	障害福祉サービス等へのつなぎ	内職作業	支援期間到達により支援終了	翌年度継続支援
12人	2人	2人	1人	4人	3人

※「支援期間到達により支援終了」後は、相談支援員・就労支援員等による継続支援あり

※協力事業所数18か所（民間企業等13か所 社会福祉法人5か所）

5事業実施のポイント ～就労体験を通じた自立支援～

Point

工賃収入（月6千円程度）を得られる施設外の就労体験をすることで、本人のインセンティブ向上につながる。施設内の自動車部品の内職作業を障害者と一緒に行うことで、お互いの理解が深まり、障害者との関わり方やコミュニケーションについて学ぶ機会となる。

- 協力事業所における施設外就労にて、食品リサイクル関連の作業を週1回半日程度体験することで、体力面やスキル面の把握や生活リズムを整えることにつながる。食品とゴミを仕分ける単純作業だが、3時間立ったままの作業なので見学・体験後に本人の参加希望を確認している。
- 小集団で協力しながら作業する中で、コミュニケーションのトレーニングにつながる。施設内の作業は工賃は出ないが、半日以上作業で給食を提供する。
- 施設内・外の支援工程は特に定めず、利用者の希望に応じた支援を実施している。



6取り組んで良かったこと

○個別支援や小集団での共同作業を定期的に行うことで、本人に何かしらの変化が見られる。個別支援での関わりを経てデイケア等の居場所ができてきたとの関わりが増えたり、資格取得を目指して職業訓練に通う等、前向きな生活への意識付けが出来た。必ずしも就労に結びつかないケースもあるが、日常生活自立・社会生活自立双方の向上を図ることはできている。
○障害者手帳取得の支援により、福祉サービス利用につながるケースについては、受託業者のノウハウが活かされている。